



決算補足説明資料

2020年12月期 第3四半期

西本Wismettacホールディングス株式会社

2020年11月13日

- 2020年12月期 第3四半期決算概要 P. 2
- 2020年12月期 通期業績予想 P. 6
- 株主還元の方針 P. 9
- 参考資料：中期経営計画 P.11
- 会社概要 P.16

2020年12月期 第3四半期 決算概要



第3四半期に入り売上・利益とも順調な回復をみせたものの、累計では前年同期比で減収。利益も上期に計上した貸倒引当金等の影響により、前年同期比では減収となった。

- ◆ 売上高は、第3四半期に入り、各国の規制緩和による外食産業の営業再開とテイクアウト・デリバリー形態へのシフト、さらに小売業態向けの好調維持により順調な回復をみせたが、累計では前年同期比で▲9.2%の減収となった。第2四半期終了時点の▲13.4%からは4.2ポイントの回復。
- ◆ 利益面も売上高の回復にともない、第3四半期は順調に推移し、累計で55百万円の営業利益となった。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症拡大に係る対応として、上期に追加計上した貸倒引当金繰入額及びたな卸資産評価損（合計約17億円）については、変更なし。

(単位：億円)

		2019年12月期	2020年12月期	
		第3四半期実績	第3四半期実績	前年同期増減
業績	売上高	1,370	1,243	▲126
	売上総利益	237	206	▲31
	営業利益（政策経費除く）	40	15	▲25
	営業利益又は損失(△)	35	0	▲35
	経常利益又は損失(△)	36	▲2	▲39
	親会社株主に帰属する 四半期純利益又は損失(△)	25	3	▲21
円ドルレート（期中平均）		109.15円	107.59円	▲1.56円
1株当たり四半期純利益又は損失(△)		177.58円	25.36円	▲152.22円

アジア食グローバル事業は、規制緩和により外食産業向けが緩やかな回復も前年同期比で減益。農水産商社事業は、第3四半期以降回復がみられ前年同期比でわずかに増益に転じる。

アジア食グローバル事業（以下、「GAF」）

- ◆ 売上高は、第3四半期に入り段階的な規制緩和とテイクアウト・デリバリー等への業態変化により、外食産業向けが緩やかに回復。小売業態向けはロックダウン解除後も好調を維持。第2四半期までの減収をカバーするには至らず、累計では減収。
 - ・ 北米地域は、前年同期比▲16.9%。
 - ・ 北米以外の地域は、前年同期比+22.9%（前期連結対象外の2社を除くと▲6.8%）。
- ◆ 利益面では、上期に計上した貸倒引当金繰入額及びたな卸資産評価損を吸収しきれず▲1.1億円の営業損失となった。
 - ・ 北米地域は、2.1億円の営業利益（前年同期は29.3億円の営業利益）。
 - ・ 北米以外の地域は、▲3.2億円の営業損失（前年同期は4.3億円の営業利益）。

農水産商社事業

- ◆ 売上高は、第3四半期に入り小売業態向けの青果販売が好調であったものの、外食産業の需要は回復が遅れ、前年同期比▲5.2%の減収となった。利益は相場の安定等により前年同期比18.0%(+0.8億円)の増益。

（単位：億円）

		2019年12月期 第3四半期実績	2020年12月期	
			第3四半期実績	前年同期増減
GAF	売上	952	847	▲105
	営業利益又は損失(△)	33	▲1	▲34
農水産商社	売上	391	371	▲20
	営業利益又は損失(△)	4	5	0
その他	売上	26	25	▲1
	営業利益又は損失(△)	0	0	▲0
調整項目	売上	-	-	-
	営業利益又は損失(△)	▲3	▲4	▲0
合計	売上	1,370	1,243	▲126
	営業利益又は損失(△)	35	0	▲35

連結貸借対照表（要約）

（単位：億円）

	2019年12月末	2020年9月末	増減額/率	主要な増減項目
流動資産	879	936	+57	現預金+117 売掛金▲17 たな卸資産▲29 貸倒引当金▲10
固定資産	86	145	+59	のれん+67 顧客関連資産▲3
資産合計	965	1,082	+116	
流動負債	190	205	+14	借入金+9 買掛金+8 未払金▲4
固定負債	251	371	+119	長期借入金+110 リース債務+2
負債合計	442	576	+134	
純資産合計	523	505	▲17	為替換算調整勘定▲15 利益剰余金▲4
負債・純資産合計	965	1,082	+116	
自己資本比率	54.2%	46.6%	▲7.6pt	
流動比率	461.5%	456.0%	▲5.5pt	

2020年12月期 通期業績予想



ロックダウンの段階的解除後の売上回復や相場の安定等により、第3四半期の販売実績は好調に推移したものの、今後の見通しに対しては、引き続き慎重な姿勢が必要。

販売面での影響

今後の見通し

海外市場

- ◆ 外食産業向けの販売は、感染拡大当初、一時的に前年比の10~20%程度まで落ち込むも、ロックダウン解除後の営業再開やテイクアウト・デリバリー等の業態変化により、直近では前年比70~80%程度まで回復
- ◆ 小売業態向けの販売は、外食抑制をうけた内食(自宅での食事)の需要増加に伴い、前年同期を上回る実績で推移

国内市場

- ◆ 青果・冷凍販売は、外食産業における需要回復は遅れているものの、小売業態向け販売は好調を維持
- ◆ 催事の中止や規模縮小により、小売店向け商品は販売不芳も、健康食品は好調

新型コロナウイルス感染の再拡大により、欧州において外出規制が再度強化される等、今後の景気回復に対する見通しは依然不透明感が強い

<押し上げ要因>

- ◆ 外食向け産業におけるテイクアウト・デリバリー導入等、ニューノーマル(新常态)への対応
- ◆ 各国政府による助成金、景気対策の拡充
- ◆ 感染拡大の終息に向けた兆し、経済活動の回復(中国等)

<押し下げ要因>

- ◆ 感染拡大の第二波をうけた営業・外出規制強化への回帰(欧州等)
- ◆ 給与補償の助成金給付期限到来等による、取引先の業況悪化
- ◆ 物流の一部停滞・混乱による販管費増加

通期業績予想については、第2四半期決算公表時から据え置き。

- ◆ 各国における経済活動の再開等に伴い、第3四半期は順調な業績回復傾向となったが、直近の欧米における新型コロナウイルス感染再拡大等の状況をふまえ、通期業績予想は据え置き。
- ◆ 業績に対する外部環境変化の影響等を勘案しつつ、足元の業績推移を注視していく。

(単位：億円)

		2019年12月期	2020年12月期		
		通期実績	第3四半期 実績	通期業績予想 (8/13公表)	前年通期 増減
業績	売上高	1,826	1,243	1,680	▲146
	売上総利益	321	206	274	▲46
	営業利益又は損失(△)	43	0	▲6	▲49
	経常利益又は損失(△)	45	▲2	▲10	▲55
	親会社株主に帰属する 四半期純利益又は損失(△)	24	3	▲5	▲29
円ドルレート (期中平均)		109.05円	107.59円	108.00円	▲1.05円
1株当たり四半期純利益又は損失(△)		173.71円	23.56円	▲34.84円	▲208.55円

株主還元の方針

【基本方針】

- ◆ 利益配分については、将来の事業展開と財務体質強化のため内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続して実施することを基本方針としております

【期末配当予想について】

- ◆ 第3四半期における販売は好調に推移し、累計で営業利益の計上となりましたが、先行きに対する見通しは未だ不透明感が強く、特に欧米における新型コロナウイルス感染症再拡大の影響等について、注視する必要があると認識しております
- ◆ 上記の状況を鑑み、第2四半期決算発表時に引き続き、期末配当予想は「未定」とさせていただきます
- ◆ 期末に向けた業績推移や内部留保等を総合的に勘案の上、決定いたします

【参考】 前期実績 (2019年12月期) : 95円 (中間配当 40円 期末配当 55円)

中期経営計画

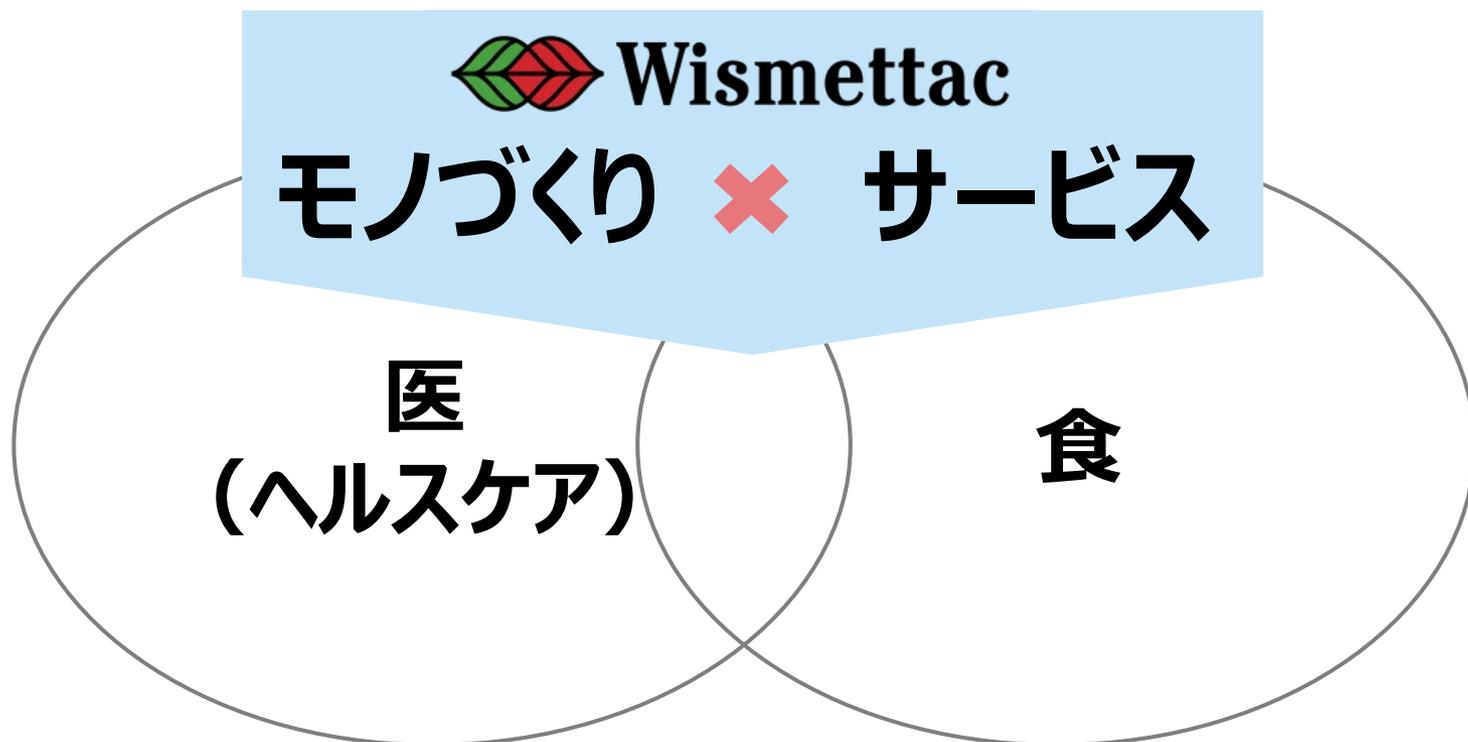
本資料は、2020年度12月期 第2四半期 決算補足説明資料(8月13日開示)の抜粋です



医（ヘルスケア）と食の融合を目指す ワンストップソリューションカンパニー

目指す
事業

医と食の領域で“モノづくり”と“サービス”を提供し、さらにそれらを一体化していくことで、顧客を創造していく



100年以上の歴史を積み重ね、食の分野において商品、商物流機能、人財の3つの軸でグローバルに土台を築いてきた

1

取扱い商品の広さ

- 8,000種以上の食品・食材を取り扱う
 - 世界中の青果物（果実、野菜）や水産物
 - アジア食・デリカを中心とした加工食品
 - サプリメント・アメニティフード

2

サービス機能の広さ

- 一気通貫でサプライチェーンをマネージ
 - グローバル最適な産地・工場のData保有
 - 自社PB製品の開発能力（→開発力）
 - 食の輸出入に係る安全性、トレーサビリティを担保する基盤（→知的財産）
 - 自社物流インフラ（→ラストワンマイル）

3

人財・ネットワークの広さ

- 世界13か国に49拠点を有し、食の主要プレイヤーとグローバルに取引
 - グロワー、サプライヤー、メーカーとのネットワーク
 - 物流業者とのコールドチェーンネットワークを網羅
 - グローバルに、レストラン・小売との長年の取引関係（信用）

グローバルな
食品会社に
成長

消費者ニーズの変化の中、必要な機能を強化し、事業領域を広げることで、顧客に選ばれるだけでなく、自ら顧客を創造できるようにする

1

モノづくり 機能の 深化

- ❑ 商品開発・生産は多くをメーカーに依存
- ❑ 「価格と良質」のバランス追求

2

サービスの 深化

- ❑ 食品・食材サプライヤー
 - オペレーションの秀逸さで勝負
 - 発注・配送の柔軟性、価格、営業の商品知識

3

領域の拡大 ～医～ (ヘルスケア)

- ❑ サプリメント販売事業のみ

これから

- ❑ 商品企画・設計や生産管理の機能の内製化
- ❑ 開発・生産体制のクラウド化
- ❑ 高付加価値型製品の追求
 - フードテックの活用
- ❑ 食のトータルソリューション提供
 - 顧客にとってサプライヤーではなく、ソリューションパートナー
 - 内製化に拘らず、異業種のノウハウを持ち込みプラットフォームに
- ❑ 高齢人口の増加、在宅医療の拡大に対応し、差別化された商品（メディカルフード）を開発、生産、販売

既存事業はコロナ禍の影響から着実に回復させる。 新規事業については積極的な投資を行う

計画前提

FY2021年上期中にコロナ感染症の影響から正常化する想定

単位：億円		実績 FY2019	見通し FY2020	計画 FY2021	計画 FY2022	評価
全社	売上	1,826	1,680	1,932	2,224	前回中計のFY2021の営業利益目標を1年遅れで達成
	営利	43	▲6	25	65	
既存	売上	1,805	1,653	1,848	2,052	コロナの影響により売上成長は遅れるものの、収益性を改善し、前回中計目標を1年遅れで達成
	営利	54	14	48	80	
GAF	売上	1,288	1,157	1,318	1,503	北米での収益性の改善とその他地域での成長により収益力を着実に回復
	営利	45	10	40	70	
農水産	売上	477	460	491	508	国内外営業の強化により着実に収益力を強化
	営利	8	3	6	8	
国内BtoC	売上	39	36	39	41	販路の多様化により、安定的に収益を堅持
	営利	1	1	2	2	
新規	売上	21	27	84	172	新規事業を一層加速
	営利	▲11	▲20	▲22	▲15	

注：計画は管理会計上の数字

2020 Nishimoto Wismettac Group All rights reserved.

会社概要



◆「地球それ自体」と「Globalism」を
イメージした2つの球体

- 革新の「赤」+自然の「緑」
- 「より健康で豊かな食生活へのあくなき挑戦の意思」

◆社名の「W」「M」「C」をモチーフとして造形化

【Wisdom】 …(西洋智)

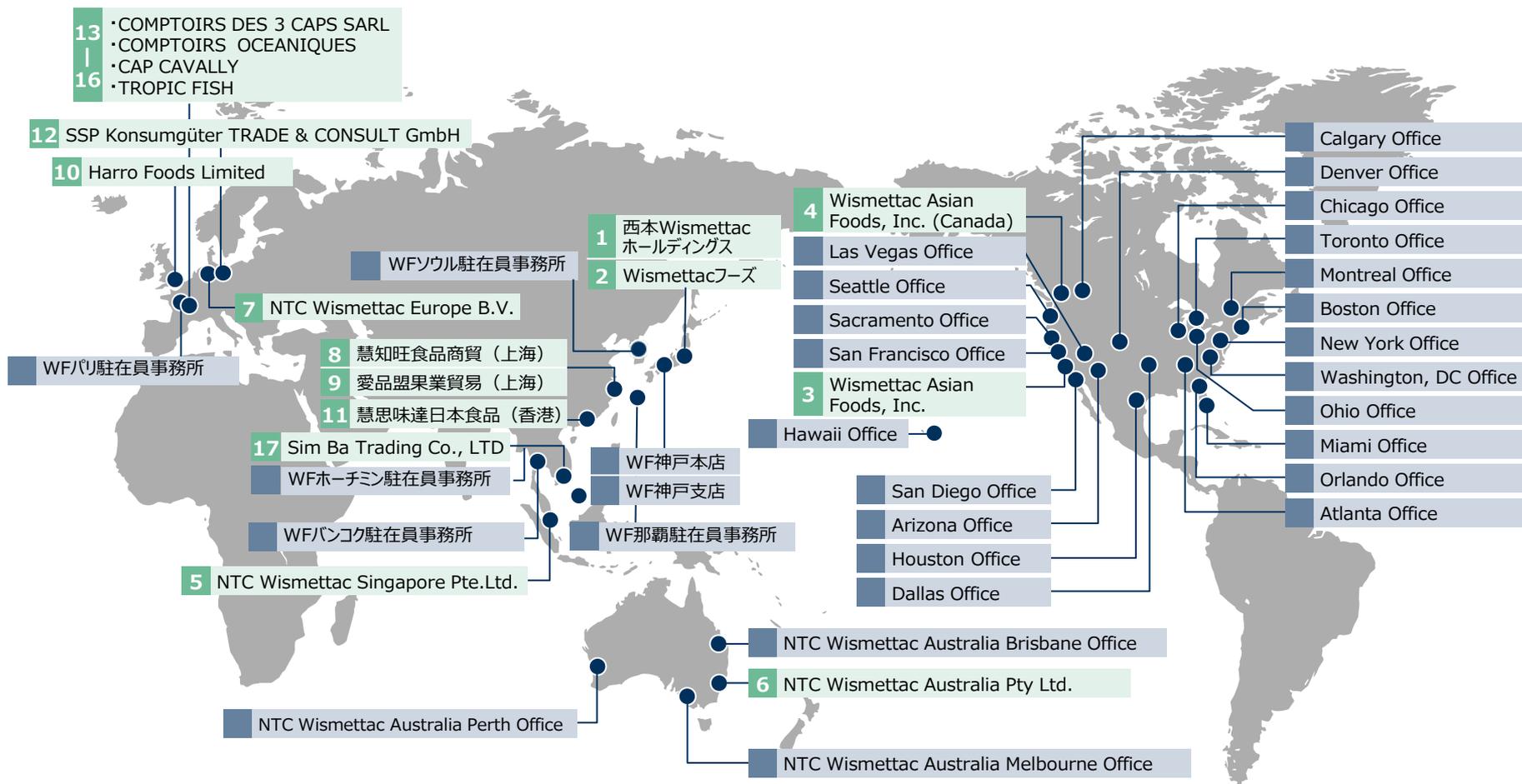
【Metta】 …(東洋智)
(パーリ語：優しさ/思いやり)

【Creativity】 …(価値の創造力)

明治45年（1912年）に創業後、世界市場に食材・食品を供給するグローバル企業へと成長

社名	西本Wismettac (ウイズメタック)ホールディングス株式会社	
本社	東京都中央区日本橋室町三丁目2番1号 日本橋室町三井タワー15階	
創業	1912年5月	
代表者	代表取締役会長兼社長 CEO 洲崎 良朗	
従業員数	1,671名（うちアジア食グローバル事業：1,374人） [2019年12月末時点]	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆ アジア食品の開発及びグローバルでの販売 ◆ 青果物全般(フルーツ、野菜、その他加工品)の輸入販売、食品メーカー並びに 外食産業向けの食材の供給 	
子会社、関連会社	子会社16社、関連会社1社	
拠点所在地	世界49か所（うち北米拠点：24か所） 日本・米国・カナダ・シンガポール・オーストラリア・オランダ・英国・ドイツ・フランス・中国・ 香港・タイ・ベトナム・韓国	
連結売上高	1,826億円 [2019年12月期]	* 海外売上比率67.7%
連結経常利益	45億円 [2019年12月期]	
自己資本比率	54.2% [2019年12月期]	

全大陸で事業展開しており、グローバルでは北米、欧州、豪州、アジアで49拠点を有する。
 そのなかで、北米（アメリカ・カナダ）は24の拠点を有し、売上の過半以上を占めるエリアとなっている



図表中の“WF”は“Wismettacフーズ”の略